

## 『プロファイリング・ビジネス 米国「諜報産業」の最強戦略』

大豆のように売買される個人情報  
匿名社会が生む監視社会の恐怖

園田 寿(甲南大学 法科大学院教授、弁護士)



ロバート・オハロー 著  
中谷 和男 訳  
ISBN : 4-8222-4465-2  
定価 : 本体 2,200 円 + 税  
日経BP社

今まで、法律学や政治学、倫理学や社会学など、およそ人間関係を扱う学問が、個人の社会的存在における匿名と顕名の問題について真剣な議論を交わしたことはなかったように思う。しかし、9.11テロ以来、「治安かプライバシーか」の問題が、この議論の必要性を訴えている。

個人を識別しうる情報ならば何でもかき集め、デジタル化し、膨大な個人情報データベースを販売の対象とする。本書は、そんなビジネスが市民の知らない間に巨大な市場を形成していることを暴露する。今やわれわれは、想像以上に裸にされているが、このプロファイリング・ビジネスの最大の得意先が、国家であることも知る。

かつて国家は、もっとも大量の個人情報を保有する組織であったが、濫用防止のためにさまざまな法的規制が施されてきた。日本でも昭和50年代前半から、公的機関が保有する個人情報に厳格なルールが設定されていく。しかし、個人情報を国家が把握して管理するのは、時代や国家形態を問わず、国家の基本的な権能でもある。問題は管理の方法的妥当性にあるのだが、プライバシーを保護すると考えられてきた匿名が、逆に治安維持の必要性から監視の必要性を生んでいる。「匿名社会」と「監視社会」とが治安を支軸にしてリンクする。この逆説的な構図に気づかされて、愕然とするのである。

## 『暗証番号はなぜ4桁なのか？ セキュリティを本質から理解する』

暗証番号を通して、セキュリティとは何かを語る  
たった4桁の番号が、ここまで広く普及したのはなぜなのか？

森山 和道(サイエンスライター)

暗証番号被害が増えている。セキュリティ技術は各種ある。だが財産を守るはずの技術が、暗証番号のような、いかにも脆弱なものでよいのだろうか。

本書はもっとも身近なセキュリティ、暗証番号を中心とした一冊だ。入り口は表題どおり、もっとも簡単なパスワードである暗証番号の話だ。「知識」という無体物で認証を行うパスワードとは、そもそも何か。基本から語られている。

だが、全体の内容は、管理と自由、利便性とのバランスや、コンピュータの原理的な話から量子暗号、マネジメントにおけるセキュリティの考え方まで幅広く、本一冊を通読すると、お徳感がある。

文体もやさしく、たとえ話や図やコラ

ムを挿入することで、誰でも取っつきやすいように書かれている。セキュリティについて考えたい人に、一冊目としておすすめできる本だ。

そもそも構造的な欠陥を持っているはずの暗証番号がここまで広く導入されて普及し、現在もまだ使われている状況を、歴史を振り返って考察した冒頭部分は、技術が普及するときに普遍的な問題が垣間見えて、かなり興味深い。セキュリティ関係者は、耳が痛いなあど苦笑しながら読みすすめることになるだろう。

表題の答え？ それは本書を読んで頂きたい。取りあえずここでは「おそらく多くの人のご想像のとおりですよ」と述べておくことにする。



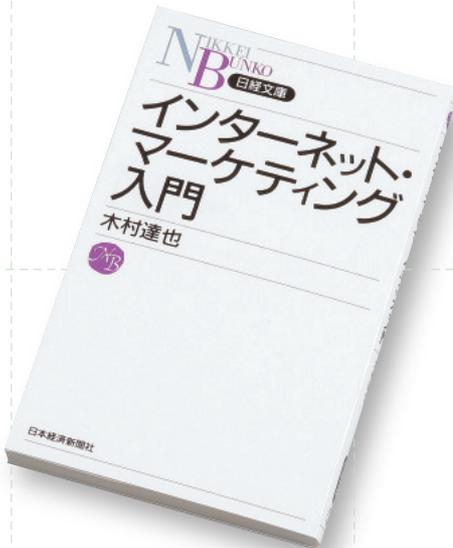
岡嶋 裕史 著  
ISBN : 4-334-03323-7  
定価 : 本体 700 円 + 税  
光文社

本でしか得られない知識がある。  
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

## 『インターネット・マーケティング入門』

インターネットはマーケティング活動の新ツールに過ぎない  
既存の資産を活用したハイブリッドな戦略が重要になる

山川 健(ジャーナリスト)



木村 達也 著  
ISBN : 4-532-11073-4  
定価: 本体 830 円 + 税  
日本経済新聞社

あたかもインターネットは新しいビジネスチャンスのように思われがちだが、実際は既存ビジネスのマーケティング手法に新たに加わったツールに過ぎない。

本書はこうした観点から、マーケティング活動にインターネットの特性を活かすための基礎的情報や考え方、具体例などを解説している。日経文庫の1冊であることから分かるように、テクニカルなハウツーではなく、ビジネスマン向けに平易に書かれた教養書の位置付けだ。

読者は、本書でインターネットによるマーケティングの概念や事例を知り、その中から、自らのビジネスにマッチする仕組みを模索していくことになる。

インターネットによって効率的に事業を

実施できるようにはなるが、インターネットは万能ではない。顧客が求めているのは選択肢で、リアルとオンラインのハイブリッドが重要だと著者は指摘する。

私は有名ホテルのウェブ担当者からこんな話を聞いた。自社のウェブサイトを実施していた結婚式の料金見積もりサービスを止めたところ、挙式件数は微減したものの、1件あたりの単価が3割以上アップし、結果的に収益は向上した。ウェブで表示される料金が独り歩きすることを防ぎ、フェイス・トゥ・フェイスで顧客と商談するようにしたためだと言う。

既存の資産を活かしながらインターネットをどう組み込んでいけるかが今後の戦略立案のベースになっていくだろう。

## 『Winnyの技術』

長い沈黙を破って、開発者自らがWinnyの技術を解説  
100万ユーザーの利用に堪えたテクノロジーとは

斉藤 彰男(編集者、SE)

京都府警がWinnyの開発者、金子勇氏を著作権法違反ほう助の疑いで逮捕したのは2004年5月10日のことだ。この事件をめぐっては、その後、技術者が負う法的リスク、Winnyが目指した「匿名性」の是非、著作権の本来の意義など、さまざまな議論が繰り広げられたことから、多くの読者の記憶に残っていることだろう。

ところが、肝心のWinnyそのものについては、ネットワークのクラックを防ぐためにプロトコルやソースコードを非公開にしたこともあり、ときおり断片的な情報を見かける程度にとどまっていた。

本書は、そのWinnyについて、金子氏が長い沈黙を破り、開発コンセプト、ネットワークデザイン、プログラムの実装、

Winnyのプロトコルといった技術を、自ら解説したものだ。

第1章では、P2Pとは何か、従来のクライアント/サーバーとの違いから説き起こし、P2Pにおけるファイル共有の概要を解説。第2章ではWinnyの開発コンセプトや匿名機構としてのプロキシ技術など、第3章ではWinnyネットワークの仕組みについて紹介し、第4章でWinnyの実装が詳細に解説されている。

さらに、第5章ではWinnyの開発を通して得た、P2Pソフト開発における問題点やその解決方法が紹介されている。

P2Pのネットワークやアプリケーションに興味を持つ読者にとっては、必読の一書と言えよう。



金子 勇 著  
アスキー書籍編集部 編  
ISBN : 4-7561-4548-5  
定価: 本体 2,400 円 + 税  
アスキー



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)